

工事現場ごとの実績データを正確な経理データとして取り込む

青森県三沢市・建設業 **鈴木建設工業**

データ活用への一歩は、既存のデータを有益に連携させ、欲しい数字を掴むことから始まる。ふだん利用しているExcelも使い方次第で効果を上げることができる。

東北新幹線八戸駅から青い森鉄道で25分。三沢駅を玄関とする青森県三沢市は、湖や海、温泉をはじめ観光資源が豊富な地域だ。さらに航空自衛隊や米軍基地が置かれる「航空の町」でもある。

この米軍基地を主要顧客の一つに持ち、公共工事や地域の住宅建築を担っているのが、鈴木建設工業である。

「創業当時から米軍基地の工事を受注しているのが強みです。基地の仕事と関連して米国企業との付き合いがありますが、付加価値があれば評価してもらえらるのありがたい状況です」

5年前に4代目社長に就任した花田仁氏は、自社の事業特性をこのように説明する。英語での取引

会社概要

鈴木建設工業株式会社

青森県三沢市新町三丁目31番地2201

- 設立：1968年
- 従業員数：25名
- 事業内容：建設工事業、土木工事業、貸倉庫業、マンション賃貸業
- URL：http://www.suzukikensetsu.co.jp/



代表取締役社長 花田仁氏

は必須となっており、米本土とのメールのやりとりは毎日のようにある。

各現場の原価状況を会社として正しく掴みたい

国内の公共工事・建築分野は、大手ゼネコンこそ賑わっているものの、地元企業は人材不足による人件費の高騰で、かえって利益が出しにくい経営環境になっている。

工事の進捗に伴う原価状況はきちんと把握しておきたいところだ。

「各現場での原価管理は行っているものの、経営者としてみると、精度やスピードが欲しいと感じました。しかし建設業にありがちですが、ITを十分に使いこなしていなかったのです」（花田社長）。



ホームページ。同社はISO9001、14001を取得している

3年ほど前、青森市で開催された経営者研修会に参加したのは、そんな思いがあったからだ。総務部長の附田郁子氏、情報システム担当者3名で4回にわたる研修会に足を運び、経営分析・経営戦略策定からIT活用を考える手法を体験。自社でも具体的なIT活用を進めるべく、研修会で講師を務めたITコーディネータの澤田徳寿氏に支援を依頼することにした。

とはいえ、長年繰り返してきた方法を急に変えることは難しい。まずは総務部が扱うデータから改善を始めた。附田部長は次のように振り返る。

「工事部門ではExcelの帳票で原価管理を行っています。しかし、算出項目の違いなどから経営

会議の資料としてはそのまま利用できず、総務部門でデータを整理し直していました。そのため、日々の前になると大忙しになり、まずここから変えていこうと考えたのです」

Excelを継続利用するが使い方を変える

同社は、澤田氏のアドバイスのもと、Excelはそのまま利用するが、総務部でのデータ管理を「データベース型」にした。

澤田氏は、「もともとなるExcelの表の1行ごとに請求書の内容や工事のコードを入力し、これをピボットテーブルなどのツールで集計・分析していく方法をお勧めしました」と解説する。

つまり、あとで活用しやすい「データの持ち方」をすることが大切であり、ここがしっかりしていれば、Excelの機能を使っ



取締役 総務部長 附田郁子氏

様々な集計や分析ができるのだ。「正直なところ、最初は良さがよくわかりませんでした。

したが、使っていくうちに効果を実感しました。仕事が簡略化されて必要な数値が出しやすくなったのです。さらに、私が1人で背負い込んでいた入力作業を3人のスタッフで分担できるようになり、今まで以上に責任を持って仕事をしてくれているのが大変うれしいです」と附田氏は目を輝かせる。

ただ、建設業という仕事の上、夏場は多忙で、IT活用の取り組みに時間を割けるのは冬場のみとなる。歩みは少しずつだが、計画は立てているという。「情報共有ができるクラウドの環境も整えましたので、この冬は皆の理解を得ながら次のステップへ進んで、全社で会社の数字が見えるようにしていきたい。それがIT経営だと思えます」と花田社長は決意を語る。

目指すのは「規模は小さくても一流、地元の若者に『入社したい』と言ってもらえる会社」。この冬の取り組みがまた新たな一歩となることだろう。

鈴木建設工業の取り組み

— Excelを上手に使う —

課題

総務 建設 営業 開発

それぞれの部門で帳票を作成

会社として正確な数字をとらえにくい！

まずは工事別の原価を把握しよう！ Excelはそのまま使う

○ 総務部門にて請求項目を工事番号と紐づけてデータベース型に

1つの項目を1行で管理

請求書	工事	項目	金額	抽出
10	A	A
	B	B
	C	C
	合計	...	000円	正しい数値がすぐわかる

効果

- ・ 入力作業の簡略化、分担
- ・ 正しい原価の把握が可能に
- ・ 経営会議に必要な工事ごとの原価をすぐ抽出できる

◀ 実際の原価データベース (画像提供: 鈴木建設工業)

サポーター紹介



ITコーディネータ 澤田徳寿氏
NPO法人 ITCあおもり 理事

青森県在住の独立系ITコーディネータ。経営戦略からIT活用までを橋渡しできる専門家として、県内を中心に活躍している。青森県の中小企業支援機関である、公益財団法人21あおもり産業総合支援センターの登録専門家でもある。

澤田氏は、いきなり高額なITシステムを検討するのではなく、等身大のツールを使いこなすことを大切にしている。鈴木建設工業の支援では、散在するExcelの表を、データベース型で使いこなすことをアドバイスし、データ抽出のための操作方法なども指導した。

同社については、「今後競争が厳しくなると、原価をはじめとする数値管理が生きてくると思います」と分析する。

花田社長は「改革のきっかけが澤田さんでした。次のステップでもアドバイスをお願いしたい」と話している。